

## おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

### 第1回 外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会

#### 『外国にルーツをもつ子どもの“日本語力の見取り”から』

(平成30年度大阪市NPO・市民活動企画助成事業)

7月22日(日)、天満の国労大阪会館にて、大阪教育大学グローバルセンターの古川敦子先生をお招きし、学習会『外国にルーツをもつ子どもの“日本語力の見取り”から』を開催しました。学校教員や地域で学習支援に関わるボランティアなど、計55名の参加がありました。

日本語教育と外国人児童生徒教育をご専門とする古川先生は、群馬県伊勢崎市で外国にルーツをもつ子どもの教育支援に携わる教員や支援員とともに、指導計画作成に関する共同研究をされています。講座ではまず、子どものことばの発達の様子を観察・把握し、適切な支援を関係者間で話し合うための共通指標として作成された『日本語ステップ』の活用法を中心に、話が進みました。さらに、子どもの既有知識や経験、得意なこと等の「強み」を活かした学習指導や、在籍学級内での日本人の子どもたちとの関わりにおける工夫など、さまざまなヒントも紹介されました。また、後半の事例討議のワークショップでは、参加者同士、他の班で出た意見やアイデアも十分に共有することができ、とても満足度の高い学習会となりました。



参加者のお一人で、中学校で日本語指導を担当されている浦久仁子さんが感想を寄せてくださいましたので、以下にご紹介します。

(AN)



#### 学習会に参加して――

(堺市立三原台中学校 日本語教室担当 指導教諭 浦久仁子)

子どもたちを指導する際、ともすれば、「何ができていないのか」がわかるチェックシートや検定試験のような、階層に分けるための目安が必要だと考えてしまいがちです。今回、古川先生より紹介された『つながる・ひろがるISESAKIステップ(以下「日本語ステップ」)』 [https://www.city.isesaki.lg.jp/material/files/group/17/kisyakaiken2017\\_4\\_12-2.pdf](https://www.city.isesaki.lg.jp/material/files/group/17/kisyakaiken2017_4_12-2.pdf) (\*2018年11月1日現在確認)は、決して子どもの言語力を判定したり評価するレベル分けのツールではありません。子どもの言葉は、同じ子どもでも、相手や場面、状況によって常に変化しています。その時々の子どもの言語行動を見取った指導者たちは、「この子は何かできるのか」を、「日本語ステップ」の7段階のステップを基準にして話し合います。つまり、その子の言葉の力を把握するための「きっかけ」となるツールなのです。それぞれのステップには「ジェスチャーを使い、繰り返し話せば、大事な語句は聞き取れる」(ステップ3)、「視覚教材を用い、考える時間を十分に与えるなどの支援があれば、新しい話題についていこうとする」(ステップ5)など、「～すれば…できる」という表現で、支援例が記載されています。支援例は、今後も継続的に追加・修正をして内容を充実させていくと伺いました。

実際にワークショップで「日本語ステップ」を使ってみると、ある事例の対象児に対し、グループ内での意見は、複数の段階のステップに分かれました。しかし、そこで、ステップを一致させるわけではなく、お互いに対象児についての話をする中で、必要な支援等を考えることができ、この作業を通して、多面的な子どもの見取りを行うことができると実感できました。

「日本語ステップ」を使うことによって、複数の指導者が共通の俎上で、一人の子どもについて語り合えるということは、学校の中で一人職である日本語担当教員の孤立化を防ぐことになると、嬉しく感じました。実際に校内で委員会を開いても現状報告で終わりになってしまうことが多く、多忙な時間を割いて関係教員に集まってもらうのは気兼ねしますが、「日本語ステップ」を使いワークショップ形式で意見交換ができれば、充実した時間になると考えます。

また、一人で何枚も作成しなければならない個別の指導計画は、加配教員にとってかなりの業務量になっていますが、ステップに基づき多方面の視点を共有しながら、複数の指導者で作成できることは、校務の負担軽減につながります。あわせて、語彙力、文法や文章構造といった日本語に対する一般教員の意識を変えることにも役立つのではないかと思います。「しゃべれているから大丈夫」という認識で、外国ルーツに限らず、日本生まれの日本人の中にも、教科書や授業内の言葉の理解ができない「言葉の力の弱い子ども」が多くなってきているという実態に、思いの至らない教員は少なくありません。子どもたちの言葉の力の貧弱さに気付くことによって、教員の授業改善にもつながっていくのではないかと感じました。



後半のワークショップでは、グループごとに2つのケースについて、どのような支援ができるのかを考えました。参加者は皆、それぞれ実践を積まれているので、用意された模造紙には、あっという間に作文指導の工夫や在籍学級での取り組み、関係機関との連携などが細かく書き込まれ、参加者の中には、写真に撮ってお土産にする方もおられました。

そのあと、古川先生からも、好きなこと・得意なことをテーマに、聞き手を意識して書く作文や、短冊作文、また6か国語で簡単な表現を載せた冊子『はなしてみよう』を使った、学級内のつながりを生み出す活動の紹介があり、意欲を引き出すことや自己肯定感育成の大切さを感じました。

最後にオコタックからも、4年前から始まった外国ルーツの高校生による「地下鉄通訳ボランティア活動」(現在 10 校参加)で、日本社会、とりわけ公共機関内での有用感を感じた生徒たちの様子や、「多文化にふれる えほんのひろば」では、子どもたちが母語の絵本紹介や踊りなど、母国の文化をいきいきと発信していることが紹介されました。

今回の研修を通して、今後も、子どもたちの実態に合わせた「居場所」と「出番」のある教育活動をすすめて、子どもたちの自尊感情を高めていかななくてはと、強く感じました。

古川先生、「日本語ステップ」を活用させていただきます。ありがとうございました。

.....



## イベント情報(1)

～おおさか子ども多文化センター主催～

### 外国にルーツをもつ子どもの教育支援シンポジウム

### 『外国にルーツをもつ X 特別な配慮が必要な子ども』

【日 時】 12月9日(日) 10時50分～16時30分

○第1部 10:50～12:30 講義 (受付 10:20～)

講師： 山本 憲子さん (愛知県立大学・知立市立知立西小学校非常勤講師、特別支援教育士・臨床発達心理士)

○第2部 13:30～16:30 パネルディスカッション、ワークショップ(第2部受付 13:00～)

パネラー： 田中 ルジアさん (継承ポルトガル語教室「プロジェクト コンストルイル アルテル」運営)

浦 久仁子さん (堺市立三原台中学校 日本語教室担当 指導教諭)

水野 励さん (ブラジルにルーツをもつ ADHD/ASD の子どもの母であり当事者、言語聴覚士)

【場 所】 大阪大学中之島センター 3階 講義室 304 (大阪市北区中之島4-3-53)

【定 員】 80名(申し込み順)

【資料代】 第1部・2部とも参加 1,000円(オコタック正会員は 600円)

※第1部 または2部のみ参加は 500円(オコタック正会員は 300円)

【申込み】 11月28日までに、名前、住所、電話、メールアドレス、参加動機を記入の上、

Web 申し込み <https://goo.gl/forms/hN61dCGYxw7iNXfy2>、または p8記載のオコタック e-mail、FAX まで。



### 『府内高校生による訪日観光客への案内通訳ボランティア』

2015年から始まり、4年目を迎えた大阪メトロでの活動を、今年度も学校の長期休業中(夏、冬、春)に予定していますが、今回は2018年の夏期活動と、これまで『OKoTaC 通信』でお伝えしきれなかったことを中心に報告させていただきます。

#### 4年目で初めて、3日間の活動中止

活動日数は2015年から17年まで、述べ147日間を数えます。しかし、この夏は25日間の予定のうち、3日間で中止せざるえない状況になりました。それは近畿に台風が接近したためで、事前に中止を決めました。天候を理由の活動中止は4年目で初めての経験でしたが、今年の夏はいかに例年のない異常な気象状況であったかを示す出来事であったと思います。また、今夏からはこれまでのなんば、日本橋に加え大阪港、大国町でも試行として活動しました。今後、活動場所に加えるかどうか検討します。



混雑する大阪港駅

#### こんな質問が、生徒に！

活動の基本は交通経路の案内が中心です。行き先は大阪観光の定番である大阪城、USJ、海遊館、あるいは帰国する際の関西国際空港など。それ以外には京都の清水寺、伏見稲荷、奈良東大寺などもよく聞かれる場所です。しかし、時には想定外の質問もあります。例えば「心齋橋の近くにアニメの殿堂〇〇〇(生徒も駅員の方も全く知らない名前だった)があるが、どのように行けばいいか」「ホテル×××(民泊施設)への行き方は？」など、ネット世界で流行していることがらに関わることや、新しい宿泊施設などに関してはお手上げです。サービスマネージャー(職員)はインターネットにつながるタブレットを持参していますが、それで調べてもわからない場合もあります。また困った事例として、10人ほどの団体を宿泊予定ホテルまで案内した生徒がいました。この時はたまたま学校の教員が付き添いに来られていたので、同行していただきましたが、これは例外とし、原則的には避けたい案内です。

一方、全く観光には関係ない質問もあります。生徒と一緒に活動していただいている職員の方に、観光客が職員の給料の額を聞いたそうです。その職員の方は正直に答えられ、生徒も通訳したそうですが、まさにこれは想定外の質問でした。また時には生徒が質問に答えられないと「そんなことも知らないのか」と言われることもあり、めげることもあるということですが、案内している高校生が母国から日本の高校に在学していることを知ると、驚きとともに、親しみを感じ、高校生と一緒に記念撮影をする観光客もいます。

#### まさに異文化？大阪メトロの券売機は外国と違う、だから「Money First」

日本の券売機の操作方法是外国のそれとは異なり、戸惑う方が多いのですが、根本的に違うことがあります。外国の券売機は行き先ボタンを押した後、お金を入れると切符を購入することができるのですが、大阪メトロの券売機は先にお金を入れなくては券売機を操作できません。長年大阪に住んでいる私たちは無意識にお金を先に入れるのですが、観光客にとってはいくらボタンを押しても反応しないので、よく券売機の前で困っている姿を見ます。そんな時、高校生が観光客に挨拶代わりに「Money First」と声をかけます。

#### 大阪メトロ職員の皆様のあたたかい配慮に感謝

38号でも記しましたが、大阪メトロの職員のみなさまには本当にあたたかく生徒に接していただいています。生徒があまりなじみのない観光地への経路案内などを求められ、困った表情をしていると、すぐ近づき、自分の子どもか弟、妹のように助言されている様子を見ると本当にありがたく感じる瞬間です。

これからも可能な限り、この活動を続けていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

(Y.H)



## メキシコ便り④ 「エルサルバドル」

(おおさかこども多文化センター会員 金野広美)

陽気な運転手マヌエルに空港まで送ってもらい、エルサルバドルに飛びました。夜8時に着き宿を首都のサン・サルバドルの旧市街にとりました。エルサルバドルは危険だからと友人にも注意されていたので、少し緊張しながらの入国でした。

次の日、観光案内所を探しに街に出ました。ひよんなことから JICA(国際協力機構)の仕事で来ているという女性に会い、宿の場所を聞かれたので答えると、その場所は危ないから替わるように勧められました。彼女は街を歩くのは危険だと運転手付きの車で移動しているそうです。私はその話を聞き、ここはそんなに怖いところなのかとびっくりしてしまいましたが、とりあえず観光案内所でも聞いてみようと思って行ってみました。そして適当な宿の紹介を頼むと、きれいなパンフレットを見せながら紹介してくれたのは、なんと私のホテルのひとつ筋違いでした。「なーんだ、私のホテルは JICA の彼女がいうほど危険な地域ではなかったのか」と彼女と現地の人との感覚の違いにちょっと驚きました。そこでホテルを変えることはせず、そのまま街に出ました。

中央市場はまるで迷路のように道が入りこみ、大勢の人でごったがえしています。それにしても物価が安い。ここの通貨は米ドルなのですが、りんごが1個 25 セントで、きゅうりも小さいですが 20 本 50 セントです。700 ミリリットルは入る大きなコップのフレッシュジュースが 80 セントです。私の泊まったホテルもバス、トイレ、テレビ付きの大きな部屋で 12 ドルです。この国はインフレ率が低く、中米でもっとも物価が安い国のひとつだそうです。日本の1年分の生活費でここだと5年は暮らせるのではと思いました。

次の日はラ・プエルタ・デ・ディアブロ(悪魔の門)という景勝地に行きました。小高い山を登ると 360 度の眺望で緑いっぱいの美しい自然が広がっています。真っ青な空と、きれいな空気ですっかりリフレッシュ、入国したときの緊張感もほぐれていました。

あくる日はここにも残るマヤの遺跡ホヤ・デ・セレン、サン・アンドレス、そして紀元前 12 世紀から紀元後 5、6 世紀ごろまで続いたチャルチュアパ文化の中心地だったタスマル遺跡やカサ・ブランカ遺跡の 4 か所を回りました。それぞれ規模は小さく、まだ調査中のところもあり、全容解明までは時間がかかりそうです。

その中のひとつ、カサ・ブランカ遺跡の展示室のとなりに日本のろうけつ染めの工房があり、入ってみると、2人のエルサルバドル人の女性が作品を作っていました。そのうちのひとりのクルスさんが「日本の方ですか?」と私に聞いてきました。私が「そうです」と答えると、この工房は JICA から派遣された日本人が作ったもので、彼女たちにろうけつ染めを教え帰国、今は彼女たちだけで運営しているそうです。クルスさんは「日本にはとても感謝しています。ろうけつ染めのブラウスやかぼんがここに来る外国人によく売れて、私たちは暮らしていけるのです」と言います。作品はデザインもとても美しく、「私も記念に一枚買います」というと、クルスさんは「染めてあげますよ、時間があまりないので簡単な模様になってしまいますが」と断りながら、きれいなぼかし模様の花柄の手ぬぐいを染めてくれました。ありがたくお礼を言い、腕にかけて乾かしながら、工房をあとにしました。

私の友人たちも何人かは JICA で働いていますが、友人たちの仕事の具体的な成果を見たような気がして、とてもうれしかったです。



## 特別寄稿「新たな段階へ進む夜間中学校」

東大阪長栄夜間中学校・常勤講師(オコタック理事) 安野勝美

編集部より

外国につながる子どもに関わっていると、多くはありませんが、ときには「夜間中学校」で在学中、あるいは出身の生徒に出会うことがあります。一昨年の「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」(以下「確保法」)制定以来、夜間中学校は多くのメディアに取り上げられるようになりました。そこで本誌では夜間中学校について、その現状と「確保法」の意味などを、実際に夜間中学校で教鞭をとられている安野勝美さんに報告していただきました。



### ★「夜間中学校」の現状

「夜間中学校」と聞いて、みなさんの脳裏にどんな絵が浮かぶでしょうか？どのような授業が展開されているのか？生徒たちはどんな表情なのだろうか？イメージできるでしょうか。最近マスコミで報道されることもあるので、その一面は垣間見ておられるかもしれませんね。それではまず、文部科学省が、2017年11月7日公表した実態調査の一部から、夜間中学校の現状をみましょう。

- ・現在8都府県 25 市区に 31 校が設置されています。さらに「夜間中学の新設に向けた検討・準備を進めている」段階にあるのは6都道府県、74 市町村です。
- ・生徒数は全国で 1,687 名。そのうち義務教育未修了者 258 名、入学希望既卒者(注)73 名。60 歳以上が 456 名、15-19 歳 342 名。日本国籍を有しないもの 1,356 名で以下略。

(注)様々な事情からほとんど学校に通えず、実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により中学校を卒業した者のうち、改めて中学校で学び直すことを希望する者のことで、「確保法」成立前は原則として入学が認められなかった地域が存在した。



### ★「確保法」制定の目的

様々な原因で学校に通えず「教育」を十分に保障されなかった人々や、実際に日本社会での社会生活に困難を感じている人などに、「生きる力」をつけようとするもの。

### ★「確保法」制定

2016年12月14日「確保法」が公布されました。この法の基本理念は、次の条項に示されています。少し長くなりますが大事な内容なので引用します。

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の意思を十分に尊重しつつ、その年齢又は国籍その他の置かれている事情にかかわらず、その能力に応じた教育を受ける機会が確保されるようにするとともに、その者が、その教育を通じて、社会において自立的に生きる基礎を培い、豊かな人生を送ることができるよう、その教育水準の維持向上が図られるようにすること」(第三条・基本理念・四)

ここでは下線にあるように「年齢・国籍、その他の置かれている事情にかかわらず」というところが重要です。(但し、この条項に関しては現実には各都府県・市町村で対応は変わるため注意が必要で、各地の状況は事前に各教育委員会などに問い合わせをしなければなりません)

ところで、この法律は、夜間中学校だけを対象としているのではなく、すべての学校教育にかかわる団体等への法律です。これまで、国としての教育事業は公的機関が中心だったのですが、それがフリースクールなど民間団体等にも開かれていることを示しています。しかし、これは実際には、民間に教育事業を手伝わせようという国の意図があるように私は思うので、条文を読み間違っただけとはいえないと考えています。

また、私としてはこの法律制定は「やっと」というか、「ようやく」というか、個人的には遅きに失しているとは思いますが、文部科学省が戦後進めてきた教育において放置してきたことを少しずつでも解決していこうと、「謝罪」の意味も込めて制定された法律ではないかと考えますが、夜間中学校のことが認められたということは嬉しいことです。この法律をきっかけに夜間中学校で、一人でも二人でも、「生きていく力」がついていくな



らば、文科省の意図はともかく、よいことではではないかと思えます。

### ★法律制定後も残る問題点

全国自治体の教育行政の法律受け止めが鈍く、積極的な動きが進んでいません。そのため「教育」を必要とする人々が適切な情報に出合っていないし、その周辺の人にもまだまだ有効な情報が届いていないのではと思われることが残念です。情報が届けば反応はあります。例えば、10月16日、毎日放送で私の勤める中学校のことが報道されると、番組が始まって数分で問い合わせの電話がありました。入学希望だけでなく、生徒さんたちに就職を世話したいという、うれしい電話も含め、すぐさま反応があったのです。

### ★「夜間中学校」の求めてきたもの

来春には、埼玉県川口市と千葉県松戸市で公立夜間中学校が開校します。といっても、まだ全国で33校。東大阪市の調査(平成28年度)では、読み書きに不自由する人が、人口の12.2%。この割合を全国に広げれば1500万人！なんとこれでは100倍の夜間中学校ができて、間に合いませんね……。

そんな中、日本語に苦労している日本国籍を有しない人々も夜間中学校に通っているわけですが、夜間中学校は日本語学校ではありません。また、日本語教育について専門的な知識を持った教員はほとんどいないので、現行の中学教科書を使って授業を進めることは、とても困難です。

しかし、「生きていくための文字と言葉」は学ぶことができます。様々な原因で学校に通えず「教育」を十分に保障されなかった人々や、実際に日本社会での社会生活に困難を感じている人などが、文字と言葉を獲得できるのが夜間中学校なのです。



## 多文化にかかわる最近のニュースから

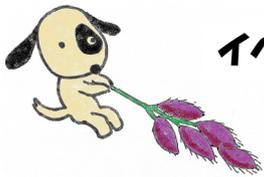
### 「日本語指導必要な生徒 高校中退率9% 公立高平均の7倍にも」

9月30日の朝日新聞朝刊に次のような記事が掲載されました。まず、その一部を要約します。

外国で育つなどして日本語が十分にできず、「日本語教育が必要な公立高校生」のうち9.61%が昨年度に中退していたことが、文部科学省が初めて実施した調査の結果で分かった。2016年度の全国の公立高校生の中退率は1.27%で、日本語教育が必要な生徒は7倍以上の割合で中退していたことになる。また、調査では中退率のほか、進路状況も調べ、そのうち(1)進学率 (2)就職者のうち、非正規の仕事に就いた率(非正規就職率) (3)進学も就職もしていない生徒の率——をまとめた。その結果、16年度の公立高校3年生は(1)が71.24%、(2)が4.62%、(3)が6.50%だったが、日本語教育が必要で、卒業見込みの高校3年生は(1)が42.19%、(2)が40.00%、(3)が18.18%だった。このように彼ら、彼女らの高校からの進学率は平均の約6割で、就職する場合は平均の約9倍の確率で非正規の仕事だった。専門家はこの結果に、支援の不足が背景にあると指摘している。

これまで外国につながる子どもの教育に関わる研究者、教育者、ボランティアなどの間では、高校進学率、中退率などが一般の生徒に比べ、かなりひどい状態であることは広く認識されていましたが、統計的には実態は把握されてきませんでした。研究の分野では以前『OKoTaC 通信』にも寄稿いただいた鍛冶到さんなどによる「2010年国勢調査にみる外国人の教育」に代表される優れた研究がありますが、文科省が直接調査にのり出したのは今回が初めてです。

この数字をみてみなさまはどのように思われるでしょうか。中退率が高い原因を個人の資質に帰するのはあまりにも酷でしょう。これは子どもたちの高校入学後のサポートがいかに不十分であることを示しているのでしょうか。多文化共生社会を構築するためには、一般の子どもと共に日本の社会を支える存在になる、外国につながる子どもたちの未来を保障する教育体制でなければならないと思います。(Y・H)



## イベント情報(2)

～おおさか子ども多文化センター主催～

### 『外国人家族のための高校進学説明・相談会』

(平成30年度大阪市NPO・市民活動企画助成事業)

子どもは日本の学校に通っているが、親は日本で通学経験がないので、高校や入試についてよくわからない。また母国の中学を卒業後に来日したいわゆる“ダイレクト”であるため、高校の情報が十分に得られない——そんな外国人家族のための進学説明会です。受験生だけでなく中学1、2年生の保護者の方もお越しください。

【日 時】 11月10日(土) 14:00～16:30 (受付13:30～)

【場 所】 国労大阪会館 3階会議室(大阪市北区錦町2-2) JR環状線「天満」駅下車 徒歩3分

【内 容】 日本の学校システムや高校の種類、入試制度や手続き、必要経費などについて。

※個別教育相談会もあります。

※中国語、ポルトガル語、ネパール語、アラビア語、フィリピン語、スペイン語の通訳あり。

【対象者】 日本語を母語としない家族、学校教員、地域の支援者 【参加費】 無料

【申込み】 子どもの名前、学校名、学年(年齢)、電話、参加人数、言語、通訳の必要の有無を記入し、下記Fax またはE-mail にて11月4日までにお申込みください。

### 『多文化にふれる えほんのひろば 2018』

～出会ってわくわく! いろいろなおはなし、世界のいろいろなおともだち～

(子どもゆめ基金助成事業・第21回大阪市図書館フェスティバル参加イベント)

日本と外国の絵本、約23言語750冊がずらりと並びます。絵本をなかだちに、楽しく多文化に出会い交流しませんか? 外国ルーツの子どもたちも、スタッフとして活躍してくれます!

★母語の絵本を楽しめる機会です、外国人のお友だちにもぜひお知らせください★

【日 時】 11月17日(土) 11:00～16:00

14:00～『多言語おはなし会』

18日(日) 11:00～15:30

13:30～『おはなしと音楽で西アフリカを感じてみよう』

両日随時: 「世界の文字で自分の名刺を作ろう」「多言語デジタル絵本体験コーナー」など

【場 所】 大阪市立中央図書館 5階(大阪市西区北堀江4-3-2) 地下鉄「西長堀」駅7番出口すぐ

【参加費】 無料 【申し込み】 不要(時間内出入り自由)



## NPO 法人 おおさか子ども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com URL http://okotac.org

郵便振替【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼロキウキウ))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさか子ども多文化センター』

フリガナ: トクヒ)オオサカコドモタブンカセンター

